

# 稲作情報

## No.9 「穂肥対応～病害虫対策」

J A えちご中越 さんとう営農センター  
TEL: 0258(41)2887

令和6年 7月 1日

**注意** 6/22の梅雨入り以降「不安定な天候」が続いています!!

ほ場ごとの生育診断にもとづき「しっかり穂肥施肥」しましょう!!

### 速報

#### コシヒカリの生育状況 (7月1日調査:地区別平均値)

6月後半も平年より気温の高い気象傾向が続いたことから、水稻の出穂期は、早生・中生・晩生品種ともに平年に比べて「3日早まる」見込みです。

#### 【管内平均値と指標値の比較】

- ・草丈: 指標値比 118% 「長い」
- ・茎数: 指標値比 102% 「並」 ほ場間差: 大
- ・葉数: 指標値差 +0.8 葉 「早い」
- ・葉色: 指標値差 -0.8 「並み」 ほ場間差: 大

★注意★ 急激な葉色低下～栄養凋落が懸念されます。ほ場ごとの生育(草丈・葉色)を適切に診断して「しっかり穂肥施用」を心がけましょう!!

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
寺泊	5/7	61.7	489	10.5	38.9
和島	5/8	63.6	478	11.1	39.0
出雲崎	5/5	60.5	391	10.1	38.7
与板	5/11	61.9	481	10.3	39.4
三島	5/5	62.7	423	9.9	34.8
越路	5/12	59.9	560	10.6	38.8
平均	5/8	61.5	488	10.5	38.4
指標値	5/10	52.0	480	9.7	39.0

早生品種の出穂が早まっています。遅れずに穂肥を施肥してネ!!

### 1. 穂肥施用

(1) 幼穂形成期及び出穂期予想と穂肥時期・施肥量の目安 (令和6年7月1日現在)

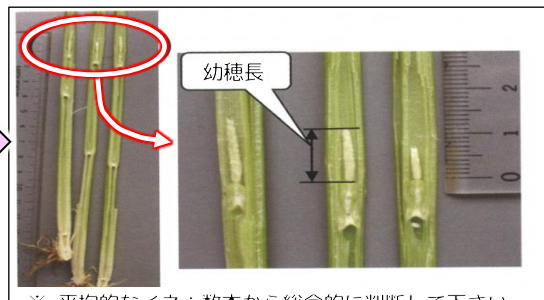
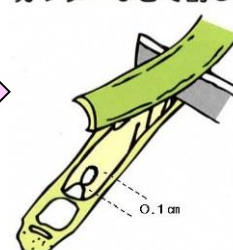
品種名	幼穂形成期	出穂期	10a窒素成分 (2回の合計)	施用時期の目安 ( )は出穂前日数	
				1回目	2回目
コシヒカリ	7月 9日	8月 1日	1~3 kg	7/14~17 (18~15)	7/22 (10)
ゆきん子舞	6月 28日	7月 21日	5~6 kg	6/26~28 (25~23)	7/ 7 (14)
こしいぶき	6月 28日	7月 21日	2~3 kg	6/28 (23)	7/ 7 (14)
ゆきの精	6月 28日	7月 21日	2~3 kg	6/26~7/1(25~20)	7/ 7~11 (14~10)
にじのきらめき	7月 11日	8月 3日	2~5 kg	7/ 4~7/9(30~25)	7/20 (14)
新之助	7月 16日	8月 8日	2 kg	7/18~21 (21~18)	7/27~29 (12~10)
ゆきみらい	6月 23日	7月 16日	5~6 kg	6/23 (23)	7/ 2 (14)
わたぼうし	6月 27日	7月 20日	2~3 kg	6/28~30 (22~20)	7/ 8~10 (12~10)
こがねもち	7月 4日	7月 27日	1~3 kg	7/ 9~12 (18~15)	7/17 (10)
五百万石	6月 25日	7月 18日	1~2 kg	6/28 (20)	7/ 6 (12)
たかね錦	6月 28日	7月 21日	1~2 kg	7/ 1~7/3(20~18)	7/ 7~11 (14~10)
越淡麗	7月 15日	8月 7日	2 kg	7/20 (18)	7/28 (10)

※ 適用移植期は、早生品種: 5月1日~5日、中生品種: 5月10日~15日移植です。今後の天候や生育状況、ほ場条件等により出穂期・幼穂形成期が前後しますので、必ずほ場ごとに幼穂を確認して、穂肥時期を判断して下さい!

(2) 幼穂長と出穂前日数の目安

出穂前日数 (日)	幼穂長 (cm)
24	0.1
20	0.2
18	0.5~1.0
12	4.0~6.0

✂️ カッターなどで割る



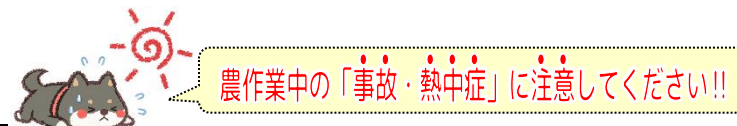
※ 平均的なイネ: 数本から総合的に判断して下さい。

管内のほ場で「葉いもち病」の発生が確認されています!!

(3) 1回目穂肥施用時の生育めやす (中晩生品種)

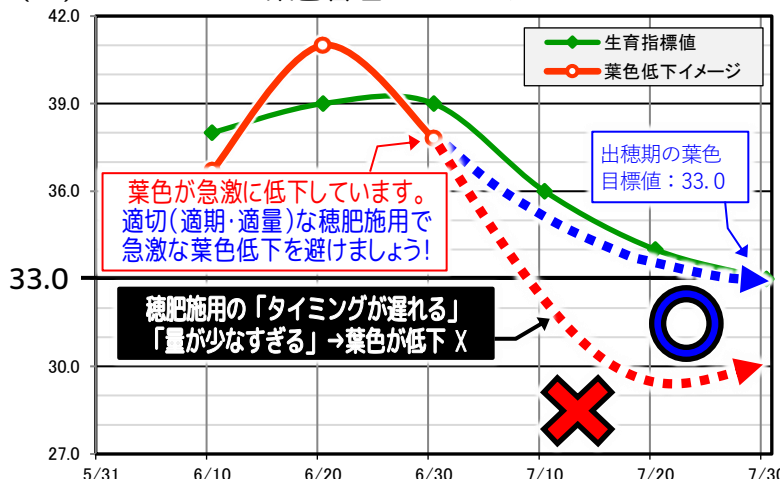
項目	コシヒカリ	新之助	越淡麗
草丈 (cm)	70~75	66~72	75
茎数 (本/株)	22	35	23
葉数 (葉)	11.5	11.5	12.5
葉色 (SPAD)	34	33~36	36

※ 窒素の多用は、病害虫の発生を助長します。→ 必ず病害虫の発生状況を確認して下さい。



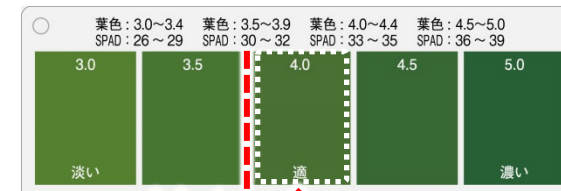
コシヒカリは、7月9日頃に「幼穂形成期」となります。この時期に行う生育診断結果と、左表の1回目穂肥施用時期の「生育めやす」を参考に、施肥時期・施肥量を判定しましょう!!

(4) コシヒカリの葉色管理のポイント



幼穂形成期から出穂期にかけて、葉色値が33以下とならない「タイミングと量」での確な穂肥を実施して下さい!

\* 基肥一発施肥の場合も同様に、葉色低下時には追加穂肥を施用して下さい。



この葉色値を下回らないように... 適期・適量の穂肥対応としましょう!

### 2. SDGs な後期水管理

幼穂形成期を迎えています。直ちに「飽水管理」へ移行しましょう!!

- ① 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理(土壌が潤っている状態)を徹底・継続します。また、高温・フェーン時には高温による障害を回避・軽減するために、なるべくこまめにかん水します。(「入水」⇔「落水」を繰り返し行って下さい!)
- ② 幼穂形成期以降は、極端に強い中干し(断根を助長)、長期間にわたるタメ水管理(根腐れを助長)は厳禁です! → 「SDGs な水管理」: 水は貴重な資源=かけ流しに注意して下さい。
- ③ 地耐力を確保できる限り、なるべく登熟後期まで飽水管理を継続することにより、土壌水分と後期栄養を維持し、フェーン現象等による土壌乾燥を防止(～高温障害を回避)します。⇒ 「最終かん水日」は出穂後25日以降を目安とし、あわせて暗渠栓の開放を可能な限り遅くします。

### 3. 病害虫対策

⚠️ 「葉いもち」の感染拡大に注意・警戒して下さい!! ⚠️

- (1) 葉いもち: 6/22の梅雨入り以降「不安定な天候」が続き、いもち病の感染好適条件が断続的に発現しています。ほ場内をこまめに観察して、葉いもちの発生を確認した場合には早急に薬剤防除を実施して下さい。【● 特別栽培米: カスミン液剤、◆ 一般米: プラシン剤】
- (2) イネ墨黒穂病: イネ墨黒穂病により汚損した玄米製品は、農産物検査で「規格外」となることから、わたぼうし・ゆきみらいのイネスミ防除を「必須防除」に位置付けて防除の徹底を呼び掛けています!!

★重要★ 防除適期: 出穂20日~10日前 | 防除薬剤: オリブライト 250G (豆つば)

(3) 斑点米カメムシ類

7月6日(土)~7月13日(土) 第2回「一斉草刈りウィーク」です!!

農道畦畔の重点対策雑草

7月以降は「メジバ」を重点に雑草管理を徹底しましょう!

★ 一斉草刈りウィーク後も引き続き「雑草種子が結実しない間隔」で雑草管理を徹底して下さい!!

～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～  
次回稲作情報: 7月中旬「生育状況、穂肥対応、病害虫対策」(予定)

葉いもち病に注意!!



# ★★★ 草丈と葉色で「穂肥を施用する時期と量」を診断しよう! ★★★

## 穂肥施用のポイント

- 1回目：幼穂形成期（幼穂長0.1cmの時期）を確認して施肥時期・施肥量を決定する。早生の場合は、適期を逃さず施用する。コシヒカリの場合は、幼穂形成期に生育診断し、時期と量を判断する。  
 【手順1～4】（草丈が長い、葉色が濃い場合は施用を控える。→施肥量を減らす、施用時期を遅らせる。）
- 2回目：後期栄養維持のため、確実に施用する。  
 ※ 出穂前10日以降の穂肥は、食味を低下させるので原則施用しない。ただし、葉色が極端（SPAD 32以下）に低下している場合や登熟期間の高温予想時には、出穂前までに生育にあわせて追加穂肥を施用する。  
 ※ 穂肥は必ず湛水して施用する。

～～ コシヒカリ穂肥施肥の心得 ～～

- ★その1: 0回目は、ムリせずほ場内の生育（葉色）をそろえるイメージで!!
- ★その2: 0回目は、稲体の活力維持～玄米の登熟向上に向けてしっかり施肥します。SPAD 値32以下は栄養失調状態です!!



幼穂形成期に診断!!  
 診断結果に応じて穂肥対応

## 手順3：グラフにあてはめる

草丈と葉色から、下記グラフのエリア（A.B.C）を確認する。

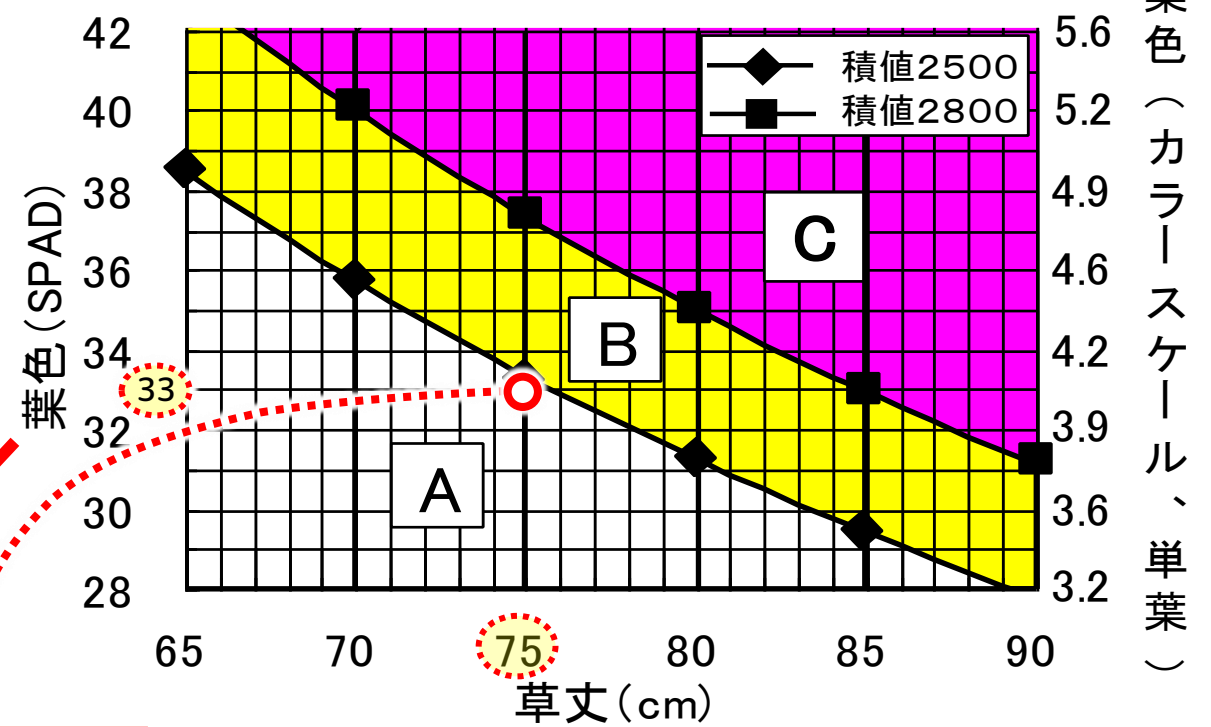


図3 幼穂形成期の生育量（草丈と葉色の積値）早見グラフ  
 積値：草丈（cm）× 葉色（SPAD）

1ヶ月気象予報は、新潟地方気象台HPの季節予報で閲覧できます。  
 （毎週木曜日更新）→気象予報は変動しますので、こまめ確認して下さい。

## 手順1：幼穂形成期の確認（幼穂長が0.1cmの時期）

- ① 平均的な生育の稲株：3株を選ぶ。
- ② 株の中で長い茎を2～3本選び株元から茎を引き抜き幼穂を確認する。
- ③ 調査株の8割以上が幼穂長0.1cm以上になった日を幼穂形成期とする。

出穂前日数（日）	幼穂長（cm）
24	0.1
20	0.2
18	0.5～1.0
12	4.0～6.0

幼穂形成期

幼穂形成期の生育診断をもとに1回目の穂肥時期・施肥量を判定し、穂肥を施用します!!

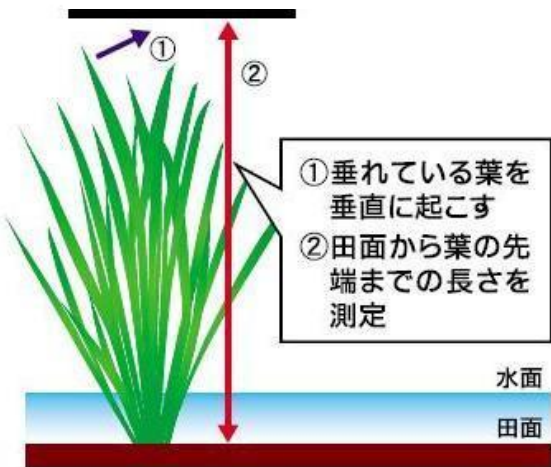
【例】  
 草丈75cm × 葉色（SPAD）33の場合は積値が2475となり、グラフエリア「A」に該当しますので・・・エリア「A」の目安を参考に穂肥を施用します。

## 手順2：草丈と葉色を測る

幼穂形成期（幼穂長0.1cm、出穂前24日ころ）に草丈と葉色を測定する。

### ① 草丈

ほ場内の平均的な生育箇所、連続して10株程度ものさしで測る。



- ① 垂れている葉を垂直に起こす
- ② 田面から葉の先端までの長さを測定

図1 草丈の測り方

### ② 葉色

平均的な生育の稲で最も長い茎を選び、現在伸びている葉の2枚下の葉を計測する。（10株程度）  
 ※ 葉色板から1cm程度離して色を比較する。

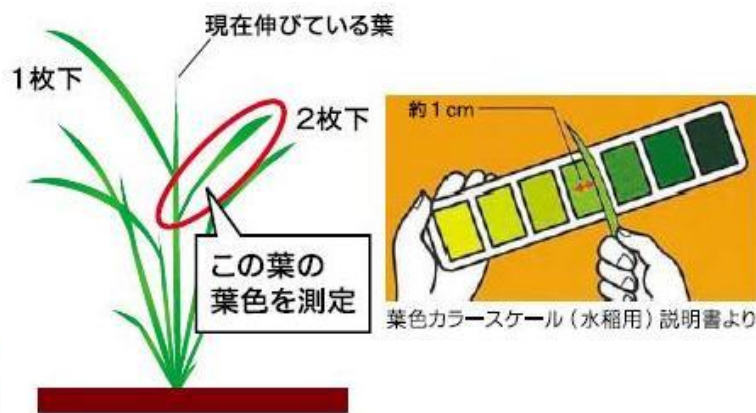


図2 葉色の測り方

## 手順4：1回目の穂肥の判断

グラフエリア（A.B.C）と幼穂伸長期の1カ月気象予報をふまえて判断する。

6月27日発表：向こう1ヶ月の平均気温「高い確率：80%」→今年はこのエリアで判断して下さい。

幼穂形成期の生育量 （草丈cm × SPAD値）	生育量 早見グラフのエリア	幼穂伸長期の気象予報別の穂肥対応		
		低温・少照・多雨	平年並	高温
2500未満	A	○△ 時期遅め、量を控えめ	◎ 出穂18日前に基準量	◎ 出穂18日前に基準量
2500以上 2800未満	B	× 施用しない	× 施用しない	○ 出穂15日前に基準量
2800以上	C	× 施用しない	× 施用しない	× △ 施用しない ただし、異常高温の場合は、15日前に基準量

表1 コシヒカリ1回目穂肥施用の目安